

校長室だより

No. 41

平成30年2月23日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよし かず  
加藤嘉一

## 六ツ美中部小学校 感謝する会

### 【感謝する会 校長の話】

先日、わたしは、6年生の子が習字の時間に書いた将来の夢を見ていました。そのなかに「ぼくの夢は、おじいちゃんのようになることです」と書いていた子がいたのを見つけました。もう一つ違うものにも、6年生は将来の夢を書くものがありました。そのA君は同じように書いているのかなと見ると、「六ツ美でボランティアをして、多くの人に六ツ美のよさを伝えたい」と書いていました。

A君のおじいさんは、毎日横断歩道に立ってみんなの登下校を助けてくれている方です。また、かつては総代の仕事をして町のために働いたり、六ツ美地区で行事があるとお手伝いをしたり、地域の歴史をまとめて記録作りもされた人です。人のために働くおじいさんのがんばりを見て、A君は「おじいさんみたいになりたい」と尊敬したのだと思いました。校長先生は、これを見てとてもうれしくなりました。ここにいるみなさんは、A君のおじいさんのように、人のために働く立派な方々です。

今日は、六ツ美中部小学校の児童のみんなのために、寒いなか時間をさいて来ていただきました。感謝の気持ちをきちんと伝えたいと思います。残念ながら今日来られなかった方々には、お会いしたときに「ありがとうございます」と言いましょう。

本日お越しのみなさん、1年間六ツ美中部小学校が大変お世話になりました。ありがとうございました。

今年も本当に多くの方に六ツ美中部小学校がお世話になりました。ここに紹介



【2月21日(水) 感謝する会】

したA君以外にも「ボランティア活動をして、世界で苦しむ人々を笑顔にしたい」と書いた子がいました。お世話になった方々の後姿や行いが、子供たちの心の畑を耕し、種となり、水となり、太陽の光となっていたのでした。菜の花は、毎年土に種を落とし、花を咲かせ続けます。その菜の花のようです。子供の心が育ったのは、ボランティアの方々のおかげです。ありがとうございました。

